

うらはら

馬鹿なあいつは棄てばちに

呟いた

(ふん、何があるものか・・・)

そして傲然と見下すのだった

(ふん、嘘つきめ)

己の嘘には全く気付かずに

信じるものは存在しないものだけで

不確かなものには唾を吐き

自分自身にさえも嘘をつき

全てを裏返しにして嘲り

己に似たものを遠ざけ

迷いには侮蔑を投げつける

美を刃物で切りつけるのは

己が醜を恥じているがためか

それならばただ恥じるがいい

愛の優しさを黒く塗りつぶすのは

愛の怖ろしさを知るがためか

それならば棄ててしまうがいい

あいつはただ知らないだけだ

通い合うものがあることを

何物にも動かし難いもの

そんなものがあることを

哀しみに取り囲まれたもの

それが苦しみでないことを

(1987.2.11)